

## エネルギー利用に関する解説

### <再生可能エネルギー利用について>

#### 再生可能エネルギーとは？

- 再生可能エネルギー（「再エネ」）は、太陽光・風力、水力、波力・張力、地熱、太陽熱、バイオマス、などであり、永続的に利用可能な国産エネルギーです。
- 太陽光や風力などの「変動性再エネ」は、発電量が季節や天候に左右され、需要と供給のバランスが崩れると、大規模な停電などを発生させる恐れがあります。

#### 国土面積あたり日本の太陽光発電設備は、中国を抜いて世界一になっています

- 太陽光発電の設備容量は、1位中国（2億5400万キロワット）、2位米国（7400万キロワット）、3位日本（6700万キロワット）です。（2020年データ）
- 国土面積（1平方キロメートル）あたりの発電設備容量で比較すると、日本は中国を抜いて世界一になっています。（中国の国土面積は日本の25倍）

#### 再エネ賦課金は、1kwhあたり3.45円であり、10年前の15倍になっています

- 「再エネの固定価格買取制度」は、再エネで発電した電気を、電力会社が一定価格で買い取ることを国が約束する制度です。電力会社が買い取る費用の一部を「再エネ賦課金」として消費者が負担。再エネの拡大とともに電気代が高騰しました。
- 「再エネ賦課金」は、1kwhあたり0.22円（2012年）でしたが現在3.45円。この10年で15倍になりました。現在毎月500kwh使用する家庭は1,725円（500kwh×3.45円/kwh）が徴収されています。今後も負担増が見込まれています。

## <原子力利用について>

### 福島原発事故の主原因であった想定外の津波の対策として高さ 18mの巨大な防波堤を造った原子力発電所もあります

- 中部電力（株）浜岡原子力発電所の敷地周りに総延長約 1.6km、高さ 18m（海拔 22m）の防波壁が既に設置されています。
- 日本原子力発電（株）東海第二発電所には津波が敷地に流入しないように、高さ 20m（海側）の防潮堤が設置される予定です。

### 原発は飛行機による故意の攻撃(テロ)を想定した対策が義務付けられています

- 原子炉は、飛翔体の追突を模擬した実験結果にもとづき、砲弾が数発程度なら命中しても問題ないほどの強度が確保されています。
- 新規制基準により、テロ攻撃などを想定した対策として特定重大事故等対策施設（「特重施設」という）の設置が義務付けられています。

### 原子力規制委員会の審査を終えて再稼働している原発はこの 10 年で 10 基です

- 福島原発事故前に 54 基あった原発のうち、原子力規制委員会の新規制基準に合格して再稼働している原発はこの 10 年で 10 基です。24 基の廃炉が決まりました。
- 北海道電力㈱は、2013 年 7 月、原子力規制委員会に泊原子力発電所の適合性審査を申請しましたが、審査に長期間を要し、現在も継続しています。

---

【お問い合わせ先】 一般社団法人原子力国民会議茨城支部

電話：029-267-0118 FAX：029-267-2676 Eメール：nnc-ibaraki@kokumin.org